

産地戦略

実施期間 令和4～6年度

実施主体 やまがたエゴマ協議会
都道府県 岐阜県
対象地域 山県市（大桑地区）
対象品目 エゴマ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本地域では、稲作が適さない農地に作付可能で獣害にも強い高収益作物であるエゴマの栽培に令和2年から取組んでいる。これまでの栽培を通して、当該作物が地域に適した品目である事が確認できたものの育苗・定植・中耕に多大な労力を要することが作付拡大への課題となっている。また、この地域は畜産農家が多く、飼料用米で飼育した鶏から発生した鶏糞堆肥を活用する事で域内循環と肥料コストの削減に繋がるものと期待される。

- 本協議会のエゴマの取組をモデルとし、関係機関との連携による推進体制を構築し、次の取組を全域に波及する。
- ・地域の畜産農家が飼育する鶏等から発生した堆肥の利用
 - ・農薬を使わない中耕作業による雑草管理
 - ・スマート農業技術等を活用した機械化・省力化によるエゴマ栽培の省力化

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		○ ○ ● ●	▲ ▲ △ △					■ ■					
		鶏糞散布 播種	定植 中耕					収穫					
技術名		↑ 基肥として鶏糞施用100kg/10a		↑ 歩行型管理機による中耕により雑草の繁茂を抑制									
		↑ 手作業で土詰め・播種											
			↑ 手植え					↑ 手刈					
	↑ 耕起と溝切												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		○ ○ ● ●	▲ ▲ △ △					■ ■					
		鶏糞散布 播種	定植 中耕					収穫					
技術名		↑ 基肥として鶏糞施用400kg/10a		↑ 乗用中耕管理機での中耕により雑草の繁茂を抑制									
		↑ 土詰め機を使用し、吸引精密播種機による播種											
			↑ 機械による定植					↑ 機械収穫					
	↑ 直進アシストを活用した耕起と溝切												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R3	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.8	▶ 15	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 15	鶏糞、中耕、播種作業等省力化
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 15	鶏糞、中耕
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 15	播種作業等省力化

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	土づくりとして鶏糞堆肥100kg/10aを施用する。	▶ 基肥として有機質資材（鶏糞堆肥400kg/10a）を施用する。	無化学肥料栽培としながらも生育量を確保し、単収を高める。
省力	手作業によるセルトレイへの土詰めと播種	▶ 播種機及び土詰め機を使用した播種作業	セルトレイへの播種作業を省力化する。
省力	手作業によるセルトレイ苗の定植	▶ 野菜移植機によるエゴマの定植	移植作業を省力化する。
省力	トラクターによる耕起	▶ 直進アシストトラクターによる耕起と溝切同時作業	直進アシスト機能によりその後の野菜移植機による定植と乗用中耕機による中耕作業の省力化が図れる。
環境 省力	歩行型中耕管理機と三角ホーによる手作業。	▶ 乗用中耕管理機での中耕により雑草の繁茂を抑制する。	除草剤を使用しない雑草対策となる。作業の省力化が図れる。

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	0	▶ 0	
環境	化学肥料使用量(kg/10a)	0	▶ 0	
省力	播種作業時間（時間/10a）	3.9	▶ 2.6	
省力	中耕作業時間（時間/10a）	15.7	▶ 8.8	直進アシストトラクターにより、中耕作業時間が短縮。
省力	定植作業時間（時間/10a）	13.8	▶ 6.8	野菜移植機により、定植作業時間が短縮。

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
 * 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

<p>・栽培マニュアルを地域の担い手研修会の場で配布して説明したり、協議会構成員のホームページに掲載したりして、検証したグリーンな栽培体系の普及・定着を目指す。</p>
--

関係者の役割

関係者名	農事組合法人おおが	グランドグリーン株式会社	岐阜県岐阜農林事務所（普及組織）	山県市
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏糞堆肥散布 ・移植機・中耕機・ドローンの活用 ・データの収集・分析 ・製品の調整、販路開拓 ・情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術指導 ・データ収集、分析 ・製品の調整、販路の開拓 ・技術・事業の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のコーディネート ・検証に係る調整、技術支援 ・栽培マニュアルと産地戦略のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の進行管理 ・産地戦略の策定支援 ・情報発信

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

<p>小学生と高校生へ向けた出前授業の実施、商談会やアグリビジネス創出フェア等イベントへの出展により、事業内容を広く消費者や流通業者等に理解を深めもらう。 エゴマ油販売のため、直売所や自社ホームページからオンラインショッピングによる販売を行う。 他の産地や加工流通業者との連携を図り、エゴマとえごま油の消費拡大につなげていく。</p>
